

## 中部支部活動報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 櫻井, 美津夫 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00025425">https://doi.org/10.14945/00025425</a>

## 中部支部活動報告

櫻井美津夫\*

中部支部では、1月の講演会（共催）と、2月の富士川流域の巡検会の、二つの活動を行った。どちらの会も寒い中、多数の参加者で盛況であった。

### (1) 講演会と実習、体験

1月27日に、静岡県高等学校理科学研究会中部支部地学部会と共催で、静岡県地震防災センターに於いて、「東海地震の予知体制と現状」という演題で、講演会を開催した。

講師の、静岡県地震防災対策課に勤務されている岩田孝仁会員から、予想される東海地震について、過去の記録や周期説、地震相互の関連についての解釈等、興味深いお話を伺った。また、最新機器の導入による地殻変動の継続的観測システムの紹介と、データの公開もあり、資料の提供もしていただき、最新の資料を授業に役立てようと、参会者の意気も上がった。

その後、センター内の各施設を見学。数人ずつグループに分かれ、起振室、消火、煙避難の体験コーナー、資料室の防災データの見学等をした。また、起振車の操作の指導も受け、職場における防災教育に、大きな成果が上げられるものと、期待される。

### (2) 富士川流域の地層と、新富士火山溶岩流の巡検

2月18日、寒いながらも、晴天微風の天候のもと、富士川流域の巡検会を行った。蒲原地震山、岩渕火砕岩類中の輝石採集、柱状節理、ポットホール、断層見学と、内容はバラエティーに富み、最後の見学地であるふじのみや奇石博物館では、館員の説明に、熱心に質問する姿も見られた。

#### ① 蒲原地震山

安政東海地震の際に出現したといわれ、富士川は地殻変動により、川の西側が隆起し、東側が沈下したため、川筋が現在のように東側へ移動した。「地震山」のあたりは、ひときわ高く隆起したため、明治20年の地図では、そこだけ針葉樹の記号になっており、周辺の水田と異なっている。

現在は、大きな工場や住宅が密集しており、見にくくなってはいるが、道路を見通したり、コンクリート擁壁の高さの変化を注意深く観察

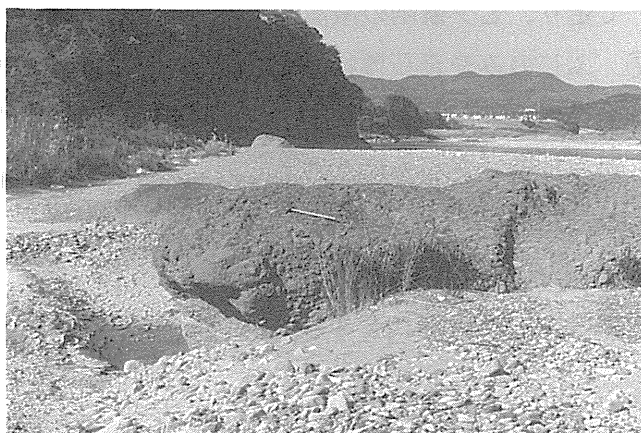


写真1 木島（富士川右岸）の岩渕火砕岩類

\* 静岡市立竜南小学校

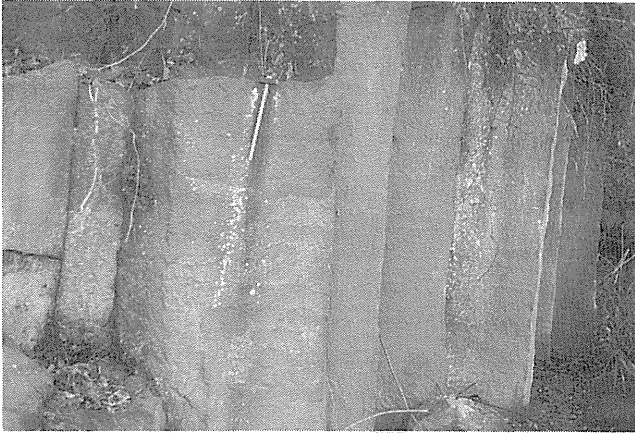


写真2 俵石

すると、明らかに地形の隆起がみとめられる。

## ② 木島採石場河原の輝石結晶

岩渕火砕岩類は、JR富士川鉄橋下に露頭があることは、よく知られており、いつ行っても岩体を打ち欠いたあとがあるが、輝石のサンプルとしては、木島の河原に露出している岩体のもの方が、新鮮で、採集しやすい。

今回も、直径3～5mmの美晶を多く採集でき、各々フィルムケースや、ビニール袋に入れて持ち帰ることができた。

## ③ 俵石

芝川溶岩流の、複輝石カンラン石玄武岩の柱状節理で、一つの柱が太いもので径1m位あり、ちょうど俵が並んでいるように見えることから「タワラ石」の名がついた。灰長石の大きな斑晶が見られ、地元では「バクイシ」（麦石）とよんでいる。

## ④ ポットホール

北山溶岩が、北松野蓬来橋下に露出しており、そこには、見事なポットホールが発達している。橋のかけかえのためのボーリング調査が行われており、担当会社の日本エルダルト社からの二人の参会者から、ボーリング調査の結果から推定される河床の地層断面図の紹介など、興味深い話を伺えた。

## ⑤ 月代（げんだい）の柱状節理

芝川溶岩の柱状節理で、個人の所有地である。天然記念物の指定を受け、入口には大きな看板がたっている。直径は50cm前後で俵石に比べるとかなり小ぶりである。

## ⑥ 蓬来橋活断層

富士川の流れに沿って縦走する多くの断層が存在することが知られている。この断層も、富士川谷の構造を反映する重要な断層の一つと推察される。蓬来橋の北寄りを、N 50°W 90°の走向、傾斜で走り、七夕豪雨の激流により、断層上の溶岩を引き裂き、断層面が数10mにわたって見通せる。

## ⑦ ふじのみや奇石博物館

世界各地の化石、鉱物、岩石の標本を展示してあり、中でもコンニャク石、テレビ石など、名称からして「奇石」にふさわしい岩石が見られる。売店で、テレビ石をみやげに購入する参加者が多かった。

寒い中、家族連れも含めて26名、大いに満足できる巡検会であった。